

# 新潟県 建設技術 センターだより

Niigata Construction Technology Center

## CONTENTS

### ■特集

02 市町村紹介コーナー 小千谷市

04 発注者支援事業紹介

### ■センターINDEX

05 試験部からおしらせ

舗装コンクリートの強度試験方法について

06 令和7年度研究助成事業活動のご紹介

柏崎地域無人駅の魅力顕在化とリノベーション

長岡工業高等専門学校 Be-Mice

07 雪のことば・雪のころ

08 憩いの場所巡り ホントカ。

編集後記

市町村紹介コーナー

## 小千谷市

[中越エリア]

### 小千谷市の自然の象徴 「山本山高原」

越後三山や遠く会津の山並みを見渡すことができ、  
眼下には信濃川の壮大な流れと  
緑豊かな新潟平野を望む絶好のビューポイントです。  
秋の早朝には、雲海や滝雲、ブロッケン現象などを  
見ることができるほか、菜の花畑(春)・ひまわり畑(夏)、  
そば畑(夏～秋)など、四季折々の彩りを楽しむことができます。



## オヂヤホタル

### OJIYA HOTARU illumination

令和6年度から実施している「オヂヤホタル OJIYA HOTARU illumination」。ペットボトル®の優しい光が山本山高原を幻想的に灯します。



# 小千谷市

Ojiya

## 小千谷市のプロフィール

面積／155.19km<sup>2</sup>

人口／32,069人(令和7年11月末)

世帯数／13,025世帯(同上)

<https://www.city.ojiya.niigata.jp/>

## 雪が生み出す恵みと美しい自然

小千谷市は新潟県のほぼ中央に位置し、市の南東部から北東部へと流れる日本一の大河・信濃川が生み出した、全国でも類を見ない規模の河岸段丘が特徴です。

全国有数の豪雪地帯であり、その雪解け水がもたらす美しい自然や田園のなかで、お米のトップブランド「魚沼産コシヒカリ」や泳ぐ宝石「錦鯉」、国重要無形文化財「小千谷縮」など小千谷特有の文化や産物が育まれました。

# 山本山四季ごとの見どころ



春

## 菜の花畑

今年は5月上旬から中旬に見ごろを迎えた菜の花畑。まるで黄色の絨毯を広げたように一面を彩ります。



夏

## ひまわり畑

広さ2ヘクタールに咲き誇る「天空のひまわり畑」。8月中旬ごろに見ごろを迎えます。



秋

## 雲海

山本山は雲海が発生しやすい特殊な環境です。条件がそろった日には是非雲海を見にお越しください。



冬

## スノーシュー

スノーシューの聖地・山本山。「おぢゃ〜」を拠点に一面銀世界の山本山をトレッキングしてみませんか。

## 主なイベント



2月

## おぢゃ風船一揆

真っ白な雪原にカラフルな熱気球がいくつも浮かぶ、小千谷市の冬の風物詩です。小千谷でこのような風景が見られるようになったのは今から50年以上前で、数人の気球乗りが雪原でのフライトを求め気球を飛ばしたことから始まりました。今では、「おぢゃ風船一揆」という一大イベントが開催されるまでに発展し、全国から多数の人が集まります。



8月

## おぢゃまつり

「おぢゃまつり」は市民総参加により開催される小千谷市最大の祭りです。「からくり万灯パレード」と「大花火大会」が見どころ。特に、「大花火大会」は約7,000発の花火が打ち上げられる県内屈指の花火大会です。フィナーレを飾る、市民の募金で打ち上げる「超ワイドベースピラス大スターメイン」の迫力は必見です。



9月

## 片貝まつり

三尺玉発祥の地として知られる片貝の花火は、江戸時代後期からの歴史があります。昭和60年には四尺玉の打ち上げにも成功し、ギネスブックに掲載されるなど、名実ともに世界一の打ち上げ花火として知られています。片貝まつりは浅原神社の秋の例大祭で、花火はこの浅原神社への奉納を意味します。



## (主)長岡片貝小千谷線バリアフリーまちづくり事業(改築)歩道 工事

### 工事概要

本事業は、小千谷市小栗田地内の主要地方道長岡片貝小千谷線において、バリアフリーのまちづくりの一環として、歩行者の安全性を高めるため、歩道が未整備となっていた区間に新たに歩道を整備することを目的としています。

周辺には小・中学校や病院があり、児童・生徒や通院される方など、多くの歩行者が利用することから、安全で安心して通行できる道路環境の整備が求められました。

### 工事内容

工事名 / 令和5年度 バリ改築 第1001-00-01-01号  
(主)長岡片貝小千谷線バリアフリーまちづくり事業(改築)歩道 工事

工期 / 令和6年1月～令和7年1月

発注者 / 新潟県長岡地域振興局 地域整備部 小千谷維持管理事務所

工事内容 / 施工延長 L=28.0m  
歩道工 L=28.0m W=2.5m  
アスファルト舗装工 A=85.0㎡  
サイフォン工 N=1式(L=20m)



段階確認



サイフォン布設状況



着手前



竣工

### 現場技術員 から一言

現場技術員 徳永 優斗

本工事は、既存道路における歩道拡幅工事と、それに伴う小千谷土地改良区のサイフォンの移設を行うものでした。施工範囲の影響により、終日片側交互通行を実施することになりました。そのため、交通誘導警備員や仮設信号機を適切に配置し、安全確保に万全を期しました。

また、複数の舗装構成があり、さまざまな舗装材料が使用されました。各箇所に適切な部材が使用されていることを確認するため、立会いを行い、品質管理にも十分留意しました。

令和7年度には継続工事も発注され、事業は順調に進行中です。今後も利用者の安全と安心を最優先に、より一層の貢献に努めてまいります。

## 試験部からお知らせ

舗装コンクリートの強度試験方法に「圧縮強度」による方法が追加されました。

### JIS A 5308 : 2024 レディーミクストコンクリートの改正について

舗装コンクリートの強度管理に用いる曲げ強度試験用供試体は、粗骨材の最大寸法が40mmの場合150mm×150mm×530mmの供試体寸法で型枠を含めると重さが約50kgとなり、荷卸し地点から所定の場所までの移送や養生管理、そして曲げ強度試験を行う工程において大きな負担となっています。

令和6年3月21日の改正では、これらの意見を踏まえて再検討され、当規格の4.1 f)に“舗装コンクリートの強度試験方法を協議事項として、(曲げ強度又は圧縮強度)”が追加されました。なお、実際の工事の品質管理は、発注機関の仕様書に従ってください。

#### 【供試体の寸法ならびに質量】

##### (1)「コンクリートの曲げ強度試験用供試体例 (JIS A 1106)」

- 骨材の最大寸法40mmの供試体寸法 150mm×150mm×530mm 供試体1個あたりの質量 約28.0kg
- 骨材の最大寸法25mmの供試体寸法 100mm×100mm×400mm 供試体1個あたりの質量 約9.4kg

##### (2)「コンクリートの圧縮強度試験用供試体例 (JIS A 1108)」

- 骨材の最大寸法40mmの供試体寸法  $\phi 125\text{mm} \times 250\text{mm}$  供試体1個あたりの質量 約7.2kg
- 骨材の最大寸法25mmの供試体寸法  $\phi 100\text{mm} \times 200\text{mm}$  供試体1個あたりの質量 約3.7kg

※ 質量は、コンクリートの単位体積質量=2.35t/m<sup>3</sup>で換算



供試体  $\phi 100\text{mm}$   $\phi 125\text{mm}$   $\square 150\text{mm}$



$\square 150\text{mm}$ 供試体による曲げ強度試験風景

### 強度試験の手順および換算方法について

#### (1)公益社団法人 日本道路協会 舗装設計施工指針による方法

- 設計基準曲げ強度を基準として、既往の研究結果より定めた強度の互換関係(換算式)を用い換算する手順による。

#### (2)全国生コンクリート工業組合連合会 全生工組連試験方法 (ZKT-215)による方法

- 同一バッチのコンクリートから作製した供試体で曲げ強度試験と圧縮強度試験を行い、最小二乗法によって両者の関係式を求め換算する手順による。



## 令和7年度 研究助成事業

# 活 動 の ご 紹 介

## 小学校との連携による柏崎地域の 無人駅における魅力の顕在化とリノベーション

団体名:新潟工科大学 工学部 建築都市学系

新潟県内には無人駅が多く、柏崎地域では17駅中16駅が無人駅になっています。しかし、鉄道駅は身近な交通拠点であり重要な社会資本でもあります。その維持には魅力の発信とリノベーションが欠かせません。JR信越本線「笠島駅」では、米山小学校の児童、JR東日本、NPO法人aisaと連携し、児童のアイデアやイラスト、新潟工科大学の卒業設計「そのとき、そこにて、おもう」をもとに改修を実施しました。10月25日には地域住民を招きお披露目式を行いました。多くの人に笠島駅を訪れてほしいと考えています。



## 市民向け建設業体験イベント 「はしおし」の実施

団体名:長岡工業高等専門学校 Be-Mice

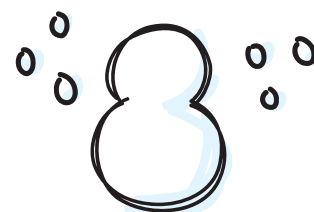


私たちは、建設業界の人手不足という課題解決に向け、建設業界を多くの方に知ってもらい、興味を持ってもらうために「橋を推して橋を愛す」という言葉のもと「はしおし」という体験型イベントの開催を行っています。活動の企画運営は長岡工業高等専門学校の学生が行っており、約50名の学生がチームを作って、得意な分野を活かしながら土木・建設に関する様々な体験を創出しています。

今年度はより学びに繋がるような体験の提供に取り組むことを目的に、新しくワークショップなどの開催も行っています。

今後も「はしおし」の活動を継続することで、より多くの人々が建設業界に触れ、興味を持つきっかけを作り続けていきたいです。

# 雪のことは・雪のころ



## 昨年の大雪

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

2025年春号にも掲載したように、昨年2月の新潟市の大雪は、記録的なものとなりました。気象庁アメダス新潟で記録した2月7日18時～20時の3時間降雪量30cmは2月の新潟市観測史上1位となっています。

右の写真をご覧ください。映像は、新潟市の道路管理のパトロールカーや雪氷防災研究センターの観測車のダッシュボードに設置しているスマホで撮影したものです。

2月7日の15時ごろから降り始め、17時ごろから集中的な強い降雪となっています。20時ごろには、前が見えないほどの降雪となりました。これが22時ごろまで継続して道路上の雪も急激に多くなり、車両の通行に支障をきたすほどになっています。このような集中豪雪時には「大雪は災害」という認識を持ちたいものです。

新潟市では、「にいがた雪の日辞典」という冊子を公表しています。これは、大雪という災害に対しての、必要な情報や対応すべきことをわかりやすく説明している資料です。新潟市居住ではない方にも十分参考になるものですので、一読されることをお勧めします。

また、私どもは新潟市様や新潟商工会議所様と共同で、新潟市内の企業様や団体様に対して、大雪時は出社を控えてテレワークをするなど、新潟市で定める大雪のレベルごとに行動を変える「雪のBCP」活動も行っています。業種によっては、雪の時も出社しなくてはならない部署があるのは当然ですが、大雪は災害であるという認識の下、参加いただいて行動を変える数が増えるほど、道路の交通量が減少し、結果的に除雪の効率向上が期待されます。ご興味のある関係者はぜひともご参加をご検討ください。



西区 25/2/7 13:20



西区 25/2/7 15:20



西区 25/2/7 17:20



中央区 25/2/7 18:20



中央区 25/2/7 20:40



南区 25/2/7 22:20

参考資料：雪のBCPに関する資料

<https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/doro/road/doroizikanri/jyosetsu/josetsu-observer/251031observer.html>

# 憩いの場所巡り

## ホントカ。

小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。(以下、ホントカ。)は、図書館と郷土資料館、市民活動の場や子どもの遊び場が混ざり合った施設として、令和6年9月28日に開館しました。

ホントカ。は人々の知を支え、地域と暮らしを育む拠点となることをミッションに掲げて多様な可能性を生み出し続ける共創の場です。



施設の愛称「ホントカ。」には、図書館を核とした複合施設らしく、「本とか他にもいろいろあるよ。」という意味が込められ、また、「ホントか!?!」と驚きワクワクする気持ちも表現しています。

「ホントカ。」の建物は、「アンカー」「フロート」「ルーフ」という3つの要素で構成されています。

ものづくりスペース、音楽やダンスなどの練習ができるスタジオ、人々の交流を生み出すカフェなど、様々な活動・交流が行われる9つの「アンカー」。動く書架や展示台によって資料間の関係性を組み替えることで、新たな気づきや関心を生み出す「フロート」。夏の太陽を遮り、冬の豪雪にも耐える大屋根で、越後三山や周辺のパノラマを楽しむことができる「ルーフ」。

リアルとバーチャル空間を融合させる「コトノハ」などの独自の仕掛けも備えており、様々な情報に出会うことができます。

是非「ホントカ。」をご利用ください!

### ホントカ。

〒947-0021 新潟県小千谷市本町1-13-35

TEL.0258-82-2724 FAX.0258-82-8915

開館時間／午前9時～午後10時

休館日／第2・第4火曜日※祝日にあたるときは、その翌日以降の最初の休日でない日、年末年始(12月29日～1月3日)

延床面積／約4,600平方メートル

敷地面積／約9,220平方メートル

駐車台数／約120台



### 編集後記

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

この新春号では、小千谷市様からのご寄稿や、文化共創拠点「ホントカ。」のご紹介を掲載いたしました。ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

今年は、2月に冬季オリンピック、3月に野球の世界大会など、冬から春にかけて注目のスポーツイベントが続きます。寒い季節ではありますが、アスリートたちの熱い挑戦に心を動かされることが多くなりそうです。

令和8年も「信用・信頼」をモットーに、新潟県の地域づくりに力を尽くしてまいります。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 編集委員 技術部 鶴巻幸之助

